

題材名「電子メールの危険性」

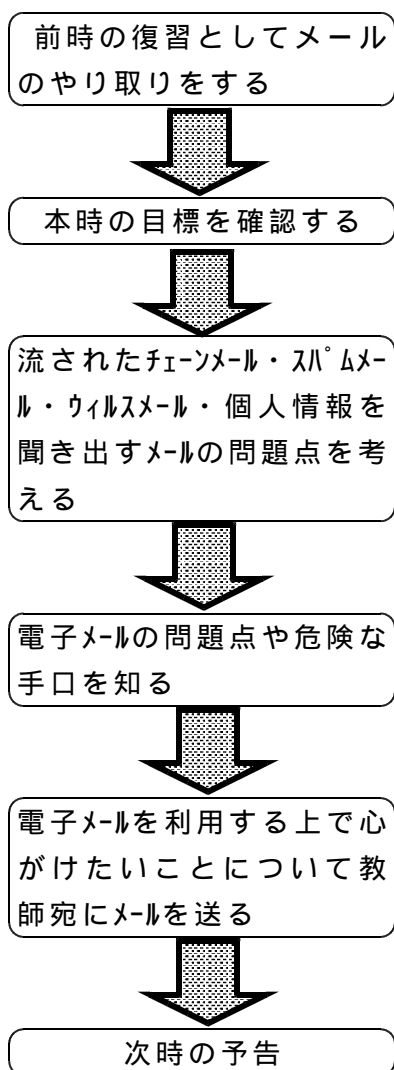
目標

- ・チェーンメールやスパムメールなど、受信したメールには、いろいろな問題が含まれていることがあることを知る。
- ・問題を含んだメールを見極める力と、適切に対処していく態度を身につける。

コンピュータを活用する利点

疑似体験ではあるが、チェーンメールやスパムメール、個人情報を引き出そうとするメールなどを実際に受け取ることで、どのように対処すべきかどうか考え、実体験できる。

授業の流れ



ICT 活用場面

本校の生徒は約半数が携帯電話やコンピュータによる電子メールを利用している。しかし、送られてくるメールには、いろいろな問題が含まれていることがあるが、そのメールの問題性が認識できず、適切な対処ができなかったために被害にあってしまう可能性がある。ここでは、人の善意を利用した「いたずらメール」をとりあげて情報の転送に際して、どのように対処すればいいかを考えさせた。また、冷静さを失った対応をすることで、相手に自分の情報を伝えてしまう危険性などについて学習した。

授業開始後、前時の復習として、コンピュータ室内のイントラでの生徒同士のメールのやりとりを行う。その中で教師よりメールを送信することを告げ、生徒に向けて問題点を含んだメールを送信する。生徒は受信したメールにどのような問題点があるかを考え、ワークシートに記入する。記入後、発表を通じて意見交換を行う。意見がまとまったところで、教師より補足説明を行う。最後にメールを利用する上での心構えについて思うことをメールで教師へ送信させた。

成果と課題

プリントなどを使って問題点のあるメールを紹介するよりもコンピュータを通じてメールを受け取ることで、実体験に近い形で問題点や、やってはいけない行動を考えることができた。特にスパムメールに対して拒否のメールを送信してしまうことの危険性は実際に体験することで理解が深まった。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	ノートパソコン（40台）、プロジェクタ
使用ソフト名	Outlook Express
使用教室	コンピュータ室